

1. 自己評価及び外部評価結果



作成日 令和3年2月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105057
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホーム おあしす坂之上
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上一丁目47番22号 (電話) 099-284-6636
自己評価作成日	令和3年1月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年1月27日



【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者様と楽しく生活する事を大切にしています。おひとりおひとりに合わせた活動を充実させて、日々の生活の中で共に楽しみながら入居者様と心の通う介護に努めています。
敷地内には菜園があり、入居者様と職員で苗の買物や植え付け、収穫、調理をしてみんなで食べることで季節の変化を感じて頂いています。
ボランティアの方々の協力を得ながら行司や、季節ごとの外出を企画しています。敬老会やクリスマス会にはご家族の方々にも参加を呼びかけ、入居者様とご家族が共に楽しんでいただけるように配慮しています。
協力医療機関、訪問看護ステーションとの24時間の連携と協力体制のもと、入居者様の健康管理、急変時の対応をさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、敷地内にある畑で職員と一緒に芋ほりしたり、趣味を生かした活動するなど自由にのびのびと生活している。
- ・協力医療機関や訪問看護ステーションとの24時間医療連携、協力体制をとっており看取り支援もしている。日々の健康管理も看護師の常駐により、適切に医療面、介護面での対応が早く柔軟に支援している。
- ・コロナ感染禍により外出支援ができない現況で、職員が協力し、ホーム内でソーメン流しや初詣を神社や賽銭箱を作成し楽しみのある支援を工夫している。
- ・感染症対策として、面会時はアクリル板を使用しソーシャルディスタンスを意識して環境を整えている。
- ・元気高齢者等介護職場インターンシップ事業により、職員入職や地域発信に繋がっている。
- ・管理者は地域交流を大切に、接遇マナーの向上を目標に職員育成に努め相談しやすい雰囲気作りを心がけている。職員間も仲がよく、ユニット間も協力関係を構築し建設的な意見交換ができている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念を簡条書きにし、目に付きやすい場所に掲げ、意識付けしている。職員は意識して地域との関わりを大切にしている。	介護事業の基本理念を基に、地域との交流を大事にしながら利用者が暮らしやすいように日々の実践に繋げている。理念は玄関や目に付きやすい場所に掲示し、パンフレットや各自ネームの裏面にも明記し、ミーティングなどで振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、資源回収にも協力したり、年に2回開催している防災訓練へ地域の方々の参加を呼びかけている。	町内会に加入し日常的に近隣住民と交流し、資源回収にも協力している。元気高齢者介護職場インターシップ事業によるボランティアの繋がりで地域発信となっている。コロナ感染渦であるが敷地内の畑で家族と芋収穫体験で交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験学習の受け入れを積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では介護活動の状況等を報告し意見や助言、要望等を出してもらい可能な限りその場で論議している。ご家族代表以外の方にも参加をお願いしている。	コロナ感染禍により、会議開催できず、利用者の状況・介護業務・行事や職員研修など、活動内容を文書で報告している。電話での意見交換を行い、文書と一緒にハガキを同封し意見をもらう方法などを提案している。コロナ禍の中、感染予防中心に対応している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	社会資源の活用や生活保護の受給者の処遇等の相談や対応を行い、運営推進会議等で長寿あんしんセンターともつながりを持ち、相談できるような関係づくりに取り組んでいる。	市担当者とは窓口で書類提出や電話で状況説明など行い意見やアドバイスを貰うなど協力関係にある。地域包括支援センターには議事録を直接持参し助言をもらう等、協力・連携している。介護相談員の受け入れや福祉課の担当職員とも情報を共有している。市主催の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的開催している。身体拘束に抵触しそうな行為がないか確認している。身体拘束についての内部研修も行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、3カ月に1回研修会を開催している。各ユニット中心にテーマを決め「ちょっとまって」等言葉の拘束を含む身体拘束をしないケアについて具体例を提示し勉強会をしている。日中の玄関の施錠はせず見守り支援し、帰宅願望の利用者には一緒に散歩する等、寄り添う支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、定期的に学習の機会を持ち、虐待のない事業所作りに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修で権利擁護について学ぶ機会を設けている。現在、成年後見人制度を利用されている方はいないが、今後いつでも活用出来るよう研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間を掛けて丁寧に説明を行っている。重要事項説明書や契約書に基づき、事業所の介護に関する考え方や活動、入退居の条件も含めた事業所としての対応可能な範囲や医療連携体制、看取りの指針などを詳しく説明し、理解、納得、同意を得た上で契約している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や家族会を開催し、意見や要望をお聞きし、意見や苦情は管理者が責任を持って対応している。また、外部の相談窓口については契約時に説明し、重要事項説明書での掲示を行っている。	利用者からは日常の関わりの中で思いを把握している。家族からはコロナ感染禍で面会自粛中であるが、感染症対策を厳守し会議室でアクリル板の使用とソーシャルディスタンスで面会実施している。毎月の便りで行事の写真や生活状況を送付し、電話で意見を聞いている。介護方法や利用者の趣味を活かした活動など取り入れている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議や各ユニットのカンファレンス時に職員の意見、要望等を話し合っている。また、日々のコミュニケーションを大切にし職員同士が話しやすい職場環境作り、関係作りに努めている。	管理者は定期的に2ユニット合同の職員会議や各ユニットカンファレンスで職員の意見や提案を聞いている。日々の関わりや年2回の個人面談で関係づくりを心がけ、対応している。福祉用具の件や排泄介助等の意見が出てケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人役員と法人内の2つのグループホーム・4つの小規模多機能型ホームの管理者で運営会議を月1回開催している。それを通して代表者も職場や職員の状況を把握し、職場環境や条件の整備を行っている。		

自	外	自己評価	外部評価
---	---	------	------

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の研修会やグループホーム連絡協議会の研修や社会福祉協議会主催の研修会に参加出来るようにしている。また、年間学習計画に基づいて内部研修の実施、資格取得も奨励している。昨年から各事業所の管理者が各事業所を訪問し、運営状況を確認する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や医療生協主催の介護交流会や研修に参加し、情報交換や交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用相談があった時は、施設見学、面談などを行っている。電話での空室確認や入居に関する相談にも対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族と面談を行っている。要望や悩みを伺うことで生活状況を把握しグループホームとしてどのような対応が出来るか検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時に本人様やご家族の状況を把握し、利用開始までの一連の流れを説明している。空室がない場合や、相談内容がグループホームの役割と異なる場合は他の事業所のサービス利用の説明等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、たたんだり、お盆拭きや庭掃除などを楽しく自信を持って生活出来る様にひとりひとりに役割を持っていただいている。本人様からの情報だけを引き出すのではなく、職員も人となりを表出して関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望等をお伝えし、ご家族に対応して頂いて本人様の望む暮らしを支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々への訪問を支援している。コスモス見学などのドライブも行っている。	コロナ感染禍にあり、家族や馴染みの人の訪問は自粛傾向にある。整容は訪問理美容師を依頼したり、手紙や電話の取り次ぎ支援をしている。近隣周辺でのドライブでバラ見物に出かけたり利用者の趣味を活かし、職員と一緒に創作活動の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、座席の配置を工夫する事で楽しく生活出来る様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方や他の事業所に移られた方でもお電話での相談に応じるなど、関係が途切れないように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的な聴き取りによる要望の把握に努めている。把握が困難な入居者様の場合はご家族からの情報を得て、職員間の話し合いの中で介護に反映させている。	利用者との日々の会話や家族からの聞き取り等で希望や意向の把握を行っている。職員の気づき等は申し送りノートに記入している。困難な場合は表情の変化や家族等と話しながら本人本位で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は本人様やご家族との面談で把握するようにしている。できるだけ本人様が生活されていた場所へ出向いて生活されていた環境を見るようにしている。入居後は日常の会話やご家族の面会時にお話を伺い把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活リズムを把握出来る様に職員全員で取り組み、日々の言動・行動や表情からの気づきを大切にしている。入居者の出来ることを見出し、状態の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には普段の生活の中での意思や思いを傾聴し介護計画に反映させている。本人様の生活に対する意向を伺いカンファレンスでさらに検討し介護計画を作成している。	本人や家族の意見を聞き、訪問診療や主治医・訪問看護師などの意見を踏まえ、担当者会議で現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは6ヵ月毎に行い状況変化時はその都度見直している。		
自	外		自己評価	外部評価		

		計画を作成している			
--	--	-----------	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、日常の様子観察を行いながら水分量・食事・排泄などを把握している。また、行動や言動にも着目しながら記録に残し情報共有を図っている。それらをカンファレンスで見直し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	諸手続きの代行や、ご家族が同行出来ない時の受診の付き添いを行っている。季節に合わせた外出や個別の外出支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内区長、民生委員、長寿あんしん相談センター職員にも参加してもらい、地域の情報や助言をもらっている。また、防犯や防災、入居者の離脱などでは交番や消防の協力を頂いて支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時や利用者の心身の状態に変化があった時はかかりつけ医に相談し、ご家族や入居者の意思を尊重して決定している。協力医療機関にかかりつけ医の変更をする場合は、前主治医からの情報提供や同意を得て変更を行っている。また、利用者の健康状態をかかりつけ医と事業所が連絡・相談出来る環境作りに努めている。	本人・家族の希望を聞いている。協力医療機関がかかりつけ医で月1回の往診、日々の健康状態の観察は職員の看護師、訪問看護師による健康管理で適切な医療支援をしている。必要時、歯科は往診であるが、主治医の指示で眼科や耳鼻科、皮膚科などの専門外来受診時は家族に協力をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は生活の中で気付いた変化を訪問看護師やホーム看護師に伝え相談している。入居者ひとりひとりが適切な受診や看護を受けられるよう支援している。ホーム看護師は担当者会議にも出席している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医・看護職員・ご家族との連携を密に取り対応している。管理者や職員が面会に行き、入院中も利用者が安心感を持ち、早期に退院出来るよう支援している。退院前はカンファレンスに参加し、退院後も安心して生活が出来るようケアについて助言を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について簡単な話をしている。また主治医に相談しながら、看取りに入る前の段階で病状説明を受けられる機会を作っている。	利用開始時に重要事項説明書で重度化に対する説明を行っている。本人・家族・主治医で話し合いをしている。終末期・看取りの支援は、同意書をもらってコロナ禍の中、特例で訪問や宿泊もできる準備をして家族の協力ももらいながら看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修で緊急時の対応方法や蘇生法の研修を行っている。対処方法や連絡先を分かりやすい場所に掲示している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難経路の確認・非難誘導の方法、消火器の取扱い・通報訓練等を実施している。また、自主訓練も実施している。避難経路や手順を掲示し、災害に備えた非常食も備蓄している。地域の協力体制については運営推進会議で町内区長や民生委員に協力をお願いし、防災訓練前に地域の方々の参加を呼び掛けている。	年2回の防災訓練を実施し、訓練時の記録がある。今年は消防署の立会はなく防火設備会社の参加で実施した。事前に近隣住民に協力依頼している。緊急連絡体制に町内役員の協力が得られている。非常用備蓄として、米・水・味噌汁・缶詰等があり、カセットコンロ・懐中電灯・救急箱等もある。コロナ感染症対策として手洗い・うがい・消毒薬・換気・面会場所・面会人数・面会時間の7項目も徹底している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で言葉使い・態度・身だしなみに重点をおいて学習し実践している。個人情報の取り扱いについては内部研修等で個人情報保護について学び、個人情報の保護の徹底に努めている。	今年度目標は接遇マナーの向上を設定し、年3回の研修で職員の意識をアップしている。利用者の呼称は苗字に「さん」付けが原則であるが、本人・家族の希望があれば名前で呼ぶこともある。入浴やトイレ誘導時、利用者のプライドを損ねない声かけを行い、排泄時カーテンを閉めたり、立ち位置を考慮している。個人情報に関する書類等は鍵のかかる場所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活場面において今どこで過ごしたいのか確認をしてから誘導している。誕生日にはリクエストされたメニューにしたり、外出を企画する際はどこにいきたいかなどを伺い、入居者の希望を大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はあるが、あくまで目安としひとりひとりのペースや希望、その日の体調や気分などによって食事時間や入浴など可能な限り柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣や好みで自己表現が出来る様に支援している。必要に応じ声かけして身だしなみを整えている。訪問理美容の際は、出来るだけ本人様から希望を聞きながらカットやパーマをしてもらっている。			
自	外		自己評価	外部評価		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の盛付けや下膳、食器洗いやお盆拭きなどをしていただいている。献立を作る際は、食べたい物がないか伺い、食欲をそそるような声掛けや雰囲気作りに努めている。	利用者の好みを取り入れ献立を作成し栄養士の助言を得ている。力量に応じて味付けや盛りつけ・後片付け・食器洗いを職員と一緒にしている。個々人の嚥下機能でとろみ食～刻みや一口大と食形態も考慮している。誕生日には好みのものを、季節行事食を提供している。コロナ感染禍にあり外食自粛のためホーム内で手作りそうめん流しを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の管理栄養士の指導を受け、バランスの取れた献立を作成し提供している。水分や食事の摂取量をチェック表にして職員が把握出来る様にしている。水分摂取量の少ない入居者には個別に好きな飲み物を提供している。本人様の状態に適したコップや器で摂取出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の保清努めている。歯磨きやうがいが困難な入居者には口腔ケア用のウェットティッシュで清拭している。必要に応じて歯科受診を検討し、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、二人介助をしながらトイレ動作を高め、一人介助で排泄が出来るようになった事例があった。	排泄パターンを把握しトイレ誘導している。立ち位置を考慮し排泄の自立に向けた支援をしている。入院でおむつになっていた利用者が2人介助から1人介助でのトイレでの排泄ができた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療職と排便状況を確認し、運動や乳製品などで便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の拒否がある場合は本人の意向を尊重し、日程を調整するなど、希望に沿った支援を実践している。	入浴は週2回で午前中の支援をしている。状況によりシャワー浴支援をしている。入浴剤を使用し香りを楽しんでいる。入浴拒否時は声掛けの工夫、順番をずらす、日にちの変更をして支援している。脱衣場の温度調整も考慮している。体調不良時は全身清拭や足のトラブルも早期発見し足浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足浴をしたり、休む前はパジャマに着替えていただくことで気持ちよく眠れるよう支援している。個々に応じた居室の明かりや環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が内服薬の内容を把握出来る様に専用のファイルを作成し、薬の説明書を整理している。与薬時は必ず職員2人で名前の確認を行い直接手渡し、本人の前で名前と日付を確認している。毎食ごとに服薬内容を記載したカードを作成し、随時確認出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた創作活動や家事支援、畑作業など多岐に渡る支援が出来ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族の協力を得ながら外泊や外出出来る様支援している。気候や入居者様の希望を考慮しながら行事や外出を企画している。	年間計画で外出支援しているが今年度はコロナ感染禍にあり、近場のドライブや敷地内の畑に行ったり、桜の花見、ユニット内での運動会、ホーム内に神社と賽銭箱を作り参拝をするなど、職員全員で工夫し楽しく支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族にお願いしており、必要時にはご家族の承諾を頂いて物品等購入している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族と電話で交流が図れる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃の徹底、空調や換気に気を付けると共に、毎月季節に合わせた貼り絵を作成し、居心地の良い空間作りに努めている。	ホールは清掃を徹底し、室温・湿度・換気に留意し空調管理を行い、気持ちよく過ごせるようにしている。季節に合わせお正月の飾り、節分、職員合作のちぎり絵などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。ベンチ型の椅子の近くにテレビがあり居心地のいい共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えをしながら一人ひとりが過ごしやすい居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を頂きながら、本人様の使い慣れた家具等を用意していただいたり、身体の状態に合わせた配置を行い居心地良く過ごせる様配慮している。	居室にはギャッチベット・クローゼット・洗面台・エアコンが設置されている。寝具類・仏壇・遺影・家族写真・テレビ・ラジオなどを持ち込み、孫手作りのしめ縄や自作のぬり絵を飾ったり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすいように居室のドアの目印やトイレの表示をしている。廊下やトイレに手すりが設置されている。玄関横で外履きに履き替えられるようにベンチを設置している。トイレは自動で転倒消滅する。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない